

子どもたちの「あふれる笑顔 きらめく瞳」をめざして



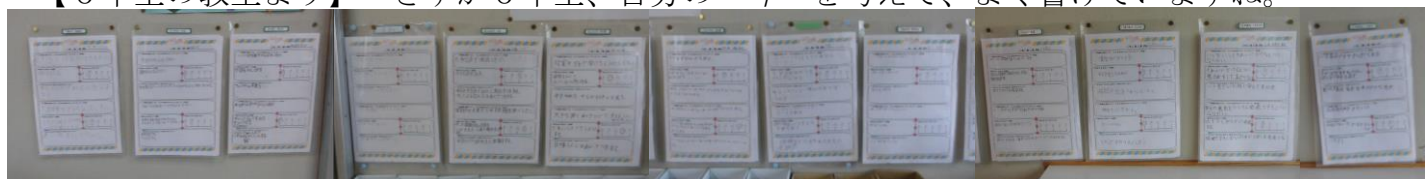
中学校区一貫教育校園 玉野市立玉小学校 学校だより第5号（令和5年4月25日）

キャリア教育

何をどうするのか ～私の目標シートより～

1学期の始業式でみなさんに話した「私の目標シート」。2～6年のそれぞれの学年でだんだんにできあがっているようです。みなさん自身が【自分の目標（めあて）】と【具体的な行動（何をどうするのか）】を考えました。

【6年生の教室より】…さすが6年生、自分の“今”を考えて、よく書けていますね。



6年生が書いたことを例にすると

イラストは著作者のご厚意で使わせていただいています

1学期の終わりににはどんな自分になりたい？

授業中、話を聞けるように…

なりたい自分になるために1学期の目標（めあて）は何にする？

姿勢をよくして話している人の顔を見る。

そのためにどうするの？

手を止める、せなかを伸ばす、見る

1学期の終わりににはどんな自分になりたい？

大きな声で発表したい。

なりたい自分になるために1学期の目標（めあて）は何にする？

大きな声を出す。

そのためにどうするの？

毎日大きな声で20人にあいさつをする、そして、どんな人にもあいさつをする。

校長先生は
こう考える



上に挙げた2つの例は、どちらも具体的な行動が書かれています。
○話が聞けるようにしたい【なりたい自分】→姿勢を良くして話して、話している人の顔を見る【目標（めあて）】→手を止める、背中を伸ばす【具体的な行動】
○大きな声で発表したい【なりたい自分】→大きな声を出す【目標（めあて）】→毎日、大きな声で20人にあいさつする、どんな人にもあいさつする【具体的な行動】

昨年度、みなさんの目標（めあて）で、よく見られたのが「〇〇をがんばる」というものでした。校長先生は、それだけでは十分ではないと思います。それは「どうがんばるのか？」という【具体的な行動】を自分で考えていないと「何をがんばるのか」が分かりにくいし、振り返るときに「何をがんばったのか」も分かりにくいからです。

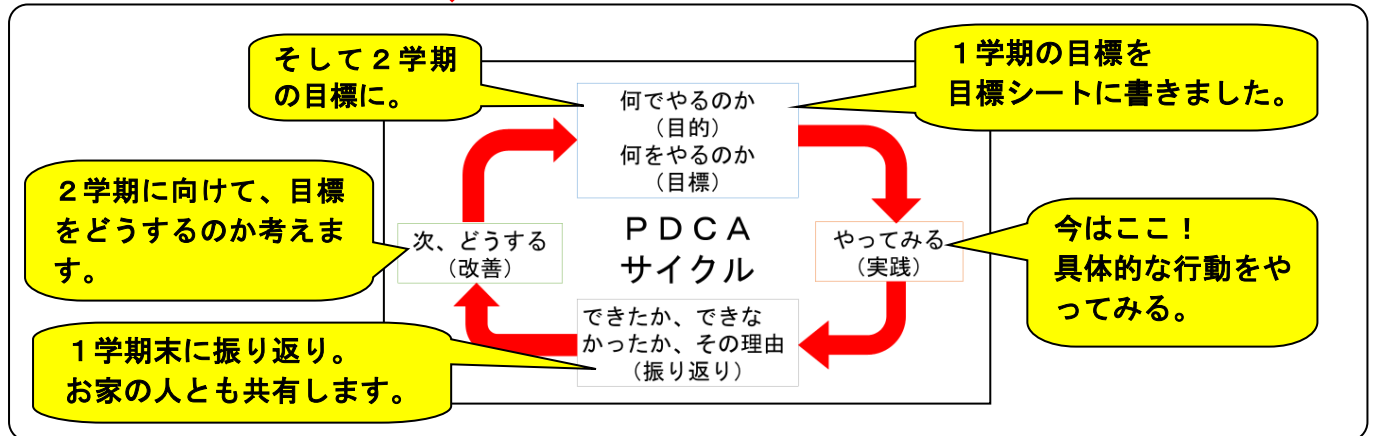
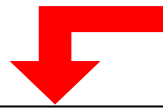
6年生の多くは【具体的な行動】を書いていた。2～5年生も【なりたい自分】を目指して、自分から【具体的な行動】に取り組もう。（1年生は、ひらがな等の学習が終わって、自分の思いが書けるようになったら行いたいと思います。）



書いた目標シートはこれからどうなるの？



こんな取組を続けていきます。何度も何度も行うことで、できることが増え、なりたい自分に近づけます。



夢を正夢に

今年の3月は連日、第5回WBCの話題でもちきりでした。結果は日本が決勝でアメリカ合衆国を破って**見事、優勝！**でした。(みなさんとWBCの話をしたときに、多くの人が試合結果をよく知っていましたね)

私も仕事以外の時間で、見られるときには、テレビの前で応援をしました。(私の奥さんは、録画した日本対アメリカの試合を今も1回表からよく見えています。飽きないのかなあ？と思うこともあります。)

その日本代表チームを率いたのが、**栗山英樹監督**でした。プロ野球ヤクルトスワローズの選手だった頃、日本ハムファイターズの監督だった頃、テレビや新聞で私はよく見っていました。学校の先生の免許を持っていることも知っていました。とっても優しくそうな方だなあと感じていました。

WBCが終わってからも栗山監督がご自身の想いを語られるテレビ番組を楽しみに見ています。そんなときに出会った言葉が**【夢を正夢に】**です。この言葉は監督の**座右の銘(自分が生きていく上で大切にしている言葉)**だそうです。「どんな意味なのかなあ」と思い、本を買って読みました。そこには小学生の頃からのことが書かれていました。くじけそうになったことや夢をあきらめそうになったことがたくさんありましたが、周囲の助けを借りながら、ご自身で夢に向かって頑張りを続けたことがよく分かりました。

本の中やインタビューから、監督は「**夢は正夢(正夢とは将来、現実になる夢のこと)にしなければ夢じゃない**」「**夢や目標をあきらめなければ、その思いはやがて形になります**」「**自分でどうやったらできるようになるのかを考えて、できるようになったら…本当に嬉しい気持ちになるはず**」と言われている。



岡山県では、《夢育》という取組を進めています。

「夢」は、「将来就きたい仕事」や「時間のかかる大きな望み」だけでなく、「今はできないけど、実現したいこと」とであると言いました。



みなさんが自分で決めた“目標(めあて)”も夢育でいう「今はできなくても、実現したいこと」にあたります。栗山監督が言われる「その思いが形になる(本当になる)」ように自分で決めたことを頑張ってみましょう。

栗山監督の本の中で、心を打たれた言葉がもうひとつあります。それは「**言葉は石ころにも宝石にもなる**」という言葉です。自分の目標・周りのアドバイスを石ころのようにけとばすのか、宝石のように磨くのか、校長先生も「頑張らないといけない」と感じました。